

私達は五六回土曜日に大仕事をしました。児童の父親や大きい兄さや姉さんや又阿母さんまで皆一緒になつて熱心に働いて下さいました。而して私達は皆確かにそれをするのを喜んで居りました。皆が一緒に働いてゆく中にはお互に悦ばしく思ふ所の自然の人情がありました。順番に道具を受取つて仕事をするといふ事は私達を親密にさせました。而して斯る親密の深さは他の何物によつても求むることは出来ません。

四周の家の人達は相變らず雑多な廢物を投げ棄て、私達をひどく苦しめました。

私達の上の家に住つてゐる婦人達は私達の庭を丁度い、塵芥拾場位に思つてゐるらしくこゝに記

すことを憚る様なものをさへ上から投げ棄て、よこしました。

注意深い人が夏になると屹度臭くて鼻持ちがならぬであらうと申しましたがまつたくさうでせう。

裏町の子供を保護して下さる特別の天使は其邊に散つてゐる硝子屑で怪我などをしない様にして下さいました。併し私達は硝子屑を集めるのには飽き飽きしました。

窓から鏝を投げ出すことは何でもありませんがこの破片を拾つて集めるのは容易なことではありません。

保育入門 (二)

二 幼児の教育

—
幼児の生活は教育を要求して居る。しかしながら、どんな教育が與へられてもいゝと言ふ譯ではない。幼児の教育は一つの特別な性質を具ふるものである。

教育の範圍は極めて廣い。従つて其の種類別も種々の立場からすることが出来るが、左に、幼児教育の性質を明かにする最も必要な類別を考へて見る。

教育を受けて居るもの、即ち被教育者が、教育を受けつゝありといふ意識を有せるや否やに就て二種の別を立てることが出来る。狹義の教育、即ち學校教育に於ては、高等なる學生は勿論、最下級なる小學兒童と雖も、自分は教育を受くるために學校に來て居るといふ意識を有して居る。言ふまでもなく其の教育といふ概念は随分區々なるもので、小學一、二年生の場合などでは、殆んど教育の概念を成さぬ程に簡單なものである。また其

の意識も極めて淺く弱く不明瞭なるものである。しかも彼等と雖も教場内の自席に着て、或は教科書を繙き、或は練習帳に對した場合に於て、之れより物を學ばんとしつゝあるなりといふ意識は有して居る。少くも、其の意識を彼等に要求するところが適當で、また其の意識を喚起する必要もあるのである。

此の意識に對して、教育者は課業を課することが出来るのである。三十分間なり五十分間なりの有意注意を要求し、それ／＼の努力をなさしめることが出来るのである。勿論充分に兒童の興味を利用し得る時には一々斯くの如き意識に訴へるの必要はないことになる。しかし。多少とも課業の意識を要求することは、學校教育に於て一般の必要といふことが出来る。

ところが、學齡前の幼兒は、斯くの如く課業の意識を要求することに未だ不適當なる時期にある彼等の生活は總べての瞬間に於て、常に其の生活

それ自らを目的とし、その生活それ自らからの満足を求めて居るのである。他の第二の目的のために生活し、また其の結果の満足を待つといふ様なことは、幼児にはまだ出来ない、

課業の意識のない生活は、すなはち遊戯生活である。遊戯生活が如何なる性質を有するかといふことは別に説くとして、之れを課業と區別して見れば、課業に於ては結果が目的とせられ、遊戯に於ては、それ自らが目的とせられて居るといふことになる。すなはち、此の意味に於て、幼児の教育は、非課業的にして、遊戯的でなければならぬと言はれるのである。

二

遊戯的であるといふことを完からしめる爲めには、幼児の自己活動を尊重する必要がある。勿論被教育者の自發性を利用することは、總べての教育に於て必要有効なることであるが、幼児教育に於ては、殊に大切なることである。而して總て

の方面に自己活動を充分ならしむるためには、成るべく外部からの干渉を避ける必要のあることは勿論である。干渉には二種あつて、たゞ壓迫し、強制するばかりが干渉ではない。其の種の干渉が幼児の自己活動を害するは言ふまでもないが、他の種の干渉、即ち餘り指導の過ぎ、世話の過ぎるのも、自己活動をして真に自己活動たらしめる爲には有害なることである。要するに、幼児をしてつとめて其の自由に委して置くといふことが、自己活動を完全存分ならしむる秘訣である。

但し、自由に委すといふからとて、たゞ無意味なる放任でないことは勿論である。既に教育であり、教育者が存在するのである以上、有意的、成案的の作業であることは、一切の教育の通性であつて、幼児教育に於ても變りはない。すなはち自由といふも、有意的成案内にあつての自由である所謂放任とは根本的に意味が異なる。

三

すべての教育の目的は、訓練教授の三つに亘つて居る。要するに體育、德育、知育であつて、身體、品性、知性の發達を目的とすることに於ては幼兒教育も同様である。たい學齡以上の教育に於ては、其の教育の方法が、此三目的に對して、それ／＼分れて行はれて居る。勿論教育竟極の目的は品性陶冶にあつて、すべてのことが品性陶冶に無關係ではあり得ないものであるが、しかも養護は養護として、教授は教授として、獨立の目的のもとに夫々の方法が行はれるのである。殊に高等の教育になると教授が特に専ら行はるゝ様にさへなる。之れに對して幼兒教育に於ては、養護、訓練、教授が、決して分れて離れて行はるゝことはない。換言すれば、教育としては身體、品性、三

方面の發達を目的として居るけれども、幼兒の生活は未だ、そこまで分化せらるゝに適して居ない従つて其の教育も、そこまで分化せらるゝことなく、たい混然たる全體の教育として行はるゝに止

まる。詳しく言へば、幼兒の教育は常に教育の三方面に涉らなければならぬのであつて、殊に其の一つを目的とした特殊な教育方法を行ふことはないのである。

此のことを他の言葉で説明すれば、幼兒教育は常に幼兒の生活全體を其の對象とすべきであつて今は其の知性のみは對象とし、今はその情性のみを對象とするといふ様なことは、決しなされないといふことになる。即ち、全生活から或る一面を抽象して對象とするのでなくして、全生活が常にそのまゝに、即ち具體的に、教育の對象とせらるゝのである。

之れを幼兒教育の具體性と名づけて置く。(後に尙詳説する處あるべし)

四

幼兒の教育をやさしい教育だといふ人がある。

之れは、教育を其の教授する教材の難易から分けた見方の言であるが、其の難易は客觀的標準によ

つての差で、之れを受くるもの、主観からいへば、すべてが自分の程度に適合したものである。小學校の教科書を中學生に教へたならば、それこそやさしい教育である、しかし、小學校の教科書を小學生に教へるのは、少しもやさしい教育でない。

之れは教材即ち教授の方面を例をとつたのであるが。幼兒に適當なる教育は、小學生、中學生にとつてはやさしい教育であるかも知れないが、幼兒自身にとつて 決してやさしい教育ではない。前に述べた通り、幼兒教育は非課業的で、遊戯的だといふ點からいへば、如何にもやさしい、冗談事の様にも聞えるのであるが、それは遊戯的といふ正しい學問的意味にはづれたことで、力一ぱいに遊んで居る時に、幼兒は充分眞面目な努力をして居るのである。所謂一生懸命なのである。吾々成人が娛樂としての遊戯に於て、極く軽い意味の生

活をして居るとは、全然相異つて居る。充分の緊張、充分の熱注、充分の努力、は幼兒の良き遊戯の必有性であつて、之れを他の標準から見ても、やさしいことをして居るといふのは、大いなる誤謬、思はざるの甚しいものである。

此のことは、更めて論ずるを要しない程に明かなる筈であるが、實際は屢々誤解せられて居る。たゞに傍觀者から誤解せられて居るのみならず、幼兒の教育者なる、母、姉、又保母にさへも、考へ違ひせられて居ることが尠くない。

重ていふ。幼兒は其の生活の自然の要求に應ずる適當の教育を與へられて居るだけで、決して彼等にとつて、やさしいことを與へられて居るのではない。之れは幼兒教育の特質として常に誤られて居ることであるから一言して置く必要がある。